

(様式 3)

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	高野裕治	所属	同志社大学
研究会等名称	道徳心理学コロキウム		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>13名 会員 6名 (うち認定心理士 0名) 非会員 7名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>この数年、国内外で注目すべき選挙・投票が多く行われ、民主主義に関する議論が活発になっていることをふまえて、本年度の道徳心理学コロキウムのテーマは「多数決を問いなおす」を設定した。多数決で物事を決めていくことは、日本では児童期より当たり前のよう使用されてきているが、様々な事柄を多数決で決めることは、道徳的に、倫理的に考えて、現代社会について問題は無いのだろうか？問題が無いのであるならば、なぜ人間は多数決の結果について、感情的に納得ができなくなり、場合によっては暴力的な行動に出ることさえ生じるのだろうか？</p> <p>そこで、今後の多数決のあり方について、問い直すために心理学の観点より、北海道大学の中分遥先生 (日本心理学会会員) より、政治学の観点より、高知大学の遠藤晶久先生 (非会員) より講演していただいた。参加者が心理学、哲学、倫理学、脳神経科学、経済学などと非常に学際的な会となったこともあり、非常に有意義な議論となった。多数決の場面の多様性 (日常、選挙など)、多数決の結果の多様性 (不可逆性、可逆性など)、多数決の生物学的基盤 (ヒト社会、動物社会など) の視点で場合を分けて、その機能について整理することができた。非常に活発な議論となったため、</p> <p>今後、日本心理学会大会のシンポジウムでもテーマとして議論していくことや、学際的に取り組めそうなテーマであったことから研究費獲得の可能性なども予感できる会となった。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
道徳心理学コロキウム				
研究集会開催日： 2017年 3月 22日(水)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	高野裕治	同志社大学	○	
2	片岡雅知	東京大学	○	
3	中分遥	北海道大学	○	
4	遠藤晶久	高知大学		
5	小田亮	名古屋工業大学	○	
6	蓮田幸人	玉川大学		
7	吉岡昌紀	清泉女子大学		
8	飯島和樹	玉川大学		
9	石田知子	慶応大学		
10	大隅正明			
11	都築幸恵	成城大学	○	
12	谷辺哲史	東京大学	○	
13	松森嘉織好	玉川大学		
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

(様式5)

2017年 3月 29 日

日本心理学会研究会

2016年度会計報告書

研究会名称 道徳心理学コロキウム

研究会番号 16025

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2017年3月22日	講師謝礼 (高知大学 遠藤晶久)	¥30,000
支出合計		¥30,000